

教科名	国語科	学 年	1	週時間数	4
使用教科書	「国語1」(光村図書)「中学書写 一・二・三年」(光村図書)				
副教材等	「学習漢字ノート1」(浜島書店)「新。基礎の学習」(進学社) 「つまづかない文法の学習」(新学社)「国語便覧」(浜島書店) 「書き方レンジャー」(正進社)				

教科の目標		○文学作品や説明的文章など様々な文章から、登場人物の思いや作者の心情、物の見方など、必要な 情報に着目して要約などを行い、自分の考えを深めることができる。 ○自分の考えや集めた情報を整理し、発表したり文章にまとめる的確に表現したりすることができ、 対話の話題や展開を捉えながら、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 ○日本語の文法、漢字等についての知識を広げ、日常生活において正しく活用できる。		
授業の進め方		○教科書を中心に授業を進めます。プリントを用いて、ペアやグループでの活動を行います。 必要に応じて便覧や辞典で意味や語句についての理解を深めます。 ○「学習漢字ノート」を用いて週1回小テストを行い、基礎学力の定着を図ります。 ○「国語スイッチ」「積み上げ」を使って予習や内容理解の補充を行います。 ○文法は教科書と「つまづかない文法の学習」を用います。文法事項の定着を図るとともに学習習慣を確立させます。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○「話すこと・聞くこと」「書くこと」、「読むこと」の各 領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に 付けるとともに、言語文化に 親しんだり理解したりするこ とができている。	○「話すこと・聞くこと」、「書く こと」、「読むこと」の各領域に おいて、筋道立てて考える力や豊 かに感じたり、想像したりする力 を養っている。また日常生活にお ける人との関わりの中で伝え合う 力を高め、自分の思いや考えを確 かなものになっている。	○言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを 確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値を気づ こうとしている。また生活 の中で言葉を適切に使おう としている。
	方法	・漢字テスト ・小テスト(暗唱等) ・定期テスト ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写の知識・技能	・定期テスト ・作文、感想文、スピーチ等 ・授業での成果物(提出プリント)	・漢字テスト ・授業における学習態度 ・ワークやプリントへの取り組み ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写(手紙等)
	学習のポイント	○言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに 着目し、教科書やプリントな どの内容を理解し、使えるよ うになろう。	○積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めるこ とを心がけよう。 ○便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。	○仲間に尋ねるなど丁寧に関わり、互いに学びあう関係 を大切にしよう。 ○配布されたプリント等を整 理し、復習につとめよう。
家庭		○漢字は何度も書いて練習しよう。 ○文法の重要事項を覚え、繰り返し練習して、知識を定着させよう。 ○ワークは学習した日にやっておく習慣をつけよう。 ○教科書を何度も読み、プリントを見直して基本となる重点ポイントを理解しよう。 ○読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。		
定期テスト範囲	1学期中間(5月中旬頃)	・物語「はじまりの風」・説明「ダイコンは大きな根？」 ・文法「音声の仕組みや働き」「指示する語句と接続する語句」		
	1学期期末(6月下旬頃)	・詩「空の詩 三編」・説明「ちょっと立ち止まって」「比喩で広がる言葉の世界」・文法「さまざまな表現技法」「言葉のまとまりを考えよう」		
	2学期中間(9月下旬頃)	・随筆「大人になれなかった弟たちに……」・説明「星の花が降るころに」「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」・文法「言葉の関係を考えよう」		

	2学期期末(11月下旬頃)		・詩「大阿蘇」・古文「竹取物語」「今に生きる言葉」 ・説明「「不便」の価値を見つめ直す」・文法「単語の性質を見つけよう」	
	学 年 末(2月下旬頃)		・古文「百人一首」・物語「少年の日の思い出」 ・随筆「二十歳になった日」・文法「活用のない自立語」	
学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	物語	・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み登場人物の気持ちの変化をとらえる。	・「はじまりの風」
	5	説明文	・段落と段落の関係に着目しながら、文章の展開をとらえ、内容を読み取る。 ・読み手にわかりやすく伝えるための、筆者の表現の工夫を捉える。	・「ダイコンは大きな根？」 ・「ちょっと立ち止まって」
	6	詩	・表現に着目しながら読み、詩に表れているものの見方や考え方を知る。	・「空の詩 三編」 ・「比喩で広がる言葉の世界」
	7	物語	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 ・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えること。	・「大人になれなかった弟たち」…… ・手紙の書き方・暑中見舞い
2	9	説明文	・論の展開・構成をふまえ、筆者の意見を捉える。 ・事実と意見の関係を叙述を持って捉える。	・「星の花が降るころに」 ・「「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ」
	10	詩	・表現に着目しながら読み、その特徴と効果について自分の考えをもつ	・「大阿蘇」
	11	古文	・古文の仮名遣いやリズムに注意して音読し、古典の世界に触れる。 ・現代とのつながりを考えて読み、物語の面白さについて自分の意見をもつ。	・「竹取物語」
	12	漢文	・現代にも受け継がれている故事成語の由来について理解を深める。	・「今に生きる言葉」
		説明	・目的に応じて文章を要約し、筆者の主張に対して自分の意見をもつ。	・「「不便」の価値を見つめ直す」 ・書き初め・年賀状
		書写	・行書の特徴について理解し、読みやすく速く書くことができる。	

3	1	古文	・代表的和歌に親しみ和歌のリズムに慣れる。	・「百人一首」
		物語	・過去を回想する構成や語り手の視点を捉え、表現の効果を理解する。	・「少年の日の思い出」
	2	随筆	・心情を表す語句や表現に着目して読み、語感を磨く。	・「二十歳になった日」
	3	文法	・単語の類別について理解する。	・「活用のない自立語」

教科名	社会	学 年	1	週時間数	3
使用教科書	「中学生の地理」(帝国書院)「中学校社会科地図」(帝国書院) 「新しい社会 歴史」(東京書籍)				
副教材等	「グラフィックワイドⅠ・Ⅱ」(とうほう)「学び考える歴史」(浜島書店) 「社会の自主学习 地理Ⅰ」(新学社)「社会の自主学习 歴史Ⅰ」(新学社) 「積み上げ 地理Ⅰ」(明治図書)「積み上げ 歴史Ⅰ」(明治図書)				

教科 の 目 標	○社会的な見方・考え方を働かせ、日本や世界における人々の暮らしと工夫や、歴史風土について、意欲的に学び合うことができる。 ○身に付けた知識や資料を読み取った内容を生かして、世界の諸地域の特色と課題、時代の特色や、社会の課題について考え、理解を深めることができる。 ○資料や地図に書かれている内容を読み取ることができる。また、資料を用いてさまざまな形にまとめたり、読み取った内容を用いて社会的事象を理解したりすることができる。 ○基本的な知識や正しい理解を身に付け、自らの暮らしに生かすことができる。		
	○ワークシート(プリント)を用いて、必要に応じてペアや小グループでの活動を行う。 ○自分で考えてもわからない時は他者に訊き、仲間に訊かれたらわかるまで説明して、支え合いながら課題を探究し、学習内容を理解していく。 ○社会のしくみや工夫、日本や世界の諸地域の課題と取り組み、日本の歴史の大きな流れや特色を世界の歴史を背景にして考え、疑問点や学んだことをまとめたり発表したりする。 ○社会的事象への理解を深めるため、他の生徒の意見を聴き、自分の意見と比べながら考えてまとめる。		
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つ け 方 を 働 か せ て 、 課 題 を 追 究 し た り し て い る。 ○世界の諸地域や各時代の特色を資料から読み取り、調べまとめている。	○地理にかかわる事象や歴史にかかわる事象を多面的・多角的に考察している。 ○課題の解決に向けて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したりしている。	○他者の考えをよく聴き、自分の考えと比較したり、さらに自分の考えを深めたりしている。 ○学習した内容を身近なところに置き換えて考えたり、解決に向けて考えたりしている。
	方法	・定期テスト ・小テスト ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み	・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み
	授 業 の ポ イ ン ト	○世界の諸地域や各時代の特色を理解する。 ○世界の諸地域や各時代の特色を資料から読み取り、調べまとめる。	○世界の諸地域の特色や関連を、多面的・多角的に考え、判断したりする。○日本や世界の歴史における各時代の特色や、相互の関連、現在とのつながりなどに着目して考える。
	家庭	○予習・復習として教科書を読んでおこう。 ○教科書やワークなどを活用して、学習内容をまとめるなどして、少しずつ復習しよう。 ○社会の出来事に関心を持ち、新聞やテレビでニュースを読んだり観たりしよう。 ○疑問に思ったことを、本やインターネットなどで調べよう。 ○学んだ内容と日常生活を関連づけて考えよう。	
定期 テス ト範 囲	1 学期中間(5月下旬頃)	地理的分野(世界と日本の地域構成)	
	1 学期期末(6月下旬頃)	地理的分野(世界と日本の地域構成・人々の生活と環境)	
	2 学期中間(9月下旬頃)	地理的分野(世界の諸地域)	
	2 学期期末(11月下旬頃)	地理的分野(世界の諸地域)・歴史的分野(古代までの日本)	
	学 年 末(2月下旬頃)	歴史的分野(古代までの日本・中世の日本)	

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《地理的分野》 第1部 世界と日本の地域構成 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	・世界の地域構成を大観し理解する。 ・地球儀や世界地図を活用できるようになる。	・緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置 ・地球儀と地図の違い、さまざまな図法の特徴 ・標準時と時差
	5	第2部 世界のさまざまな地域 第1章 人々の生活と環境	・世界の地域構成の特色を、多面的・多角的に考察し、表現する。 ・世界と日本の地域構成に見られる課題を主体的に追究する。	・世界の様々な地域の気候と暮らし ・宗教の分布 ・伝統的な生活と変化
	6	第2章 世界の諸地域	・世界各地の自然環境、文化や生活、宗教との関わり、日本とのつながりや現代の課題などについて、考察したことをもとに理解する。	・おもな自然地形、暮らしの特徴と気候や地形、歴史的背景とのつながり、現代の課題
	7	①アジア州 ②ヨーロッパ州 ③アフリカ州		
2	9	④北アメリカ州	・世界各地の自然環境、文化や生活、宗教との関わり、日本とのつながりや現代の課題などについて多面的、多角的に考察し、表現する。	
	10	⑤南アメリカ州 ⑥オセアニア州		
		第3部 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査のしかた		・調査課題の検討 ・調査結果のまとめ ・地形図の使い方
	11	《歴史的分野》 第1章 歴史へのとびら ①歴史をとらえる見方・考え方 ②身近な地域の歴史	・時代区分や時代の移り変わりを捉えるための基本的知識を身に付ける。 ・身近な地域の歴史について、より良い社会の実現を視野に課題を追究する。	・時代区分 ・おもな人物と時代区分 ・文明のおこりと日本の成り立ち
	12	第2章 古代までの日本 ①世界の古代文明と宗教のおこり ②日本列島の誕生と大陸との交流 ③古代国家の歩みと東アジア世界	・世界の古代文明や宗教のおこりをもとに、世界各地で文明が築かれたことを理解する。 ・日本において国家が形成されていった過程を、東アジアの文明の影響と関連付けて理解する。 ・東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられたことを理解する。	・古代文明とイスラム教 ・日本列島の誕生と縄文文化 ・弥生文化と邪馬台国 ・大王の時代 ・聖徳太子、大化の改新 ・律令国家の成立 ・奈良時代、平安時代の政治と人々の暮らし

3	1	③古代国家の歩みと東アジアの世界	・東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら、天皇や貴族による政治が行われたことを理解する。 ・古代までの日本の特色を、世界とのつながりと関連付けて多面的、多角的に考察し、表現する。	・平安時代の政治と人々の暮らし
	2	第3章 中世の日本 ①武士の政権の確立	・武家政権の成立と武家社会の発展、東アジアの動きとの関わり、中世の社会や政治の変化、新しい文化の特色と背景について多面的、多角的に考察し、特色を理解する。	・武士の成長と鎌倉幕府の成立 ・鎌倉時代の文化と宗教 ・モンゴルの襲来と日本 ・南北朝の動乱と室町幕府 ・応仁の乱と戦国大名 ・室町文化とその広がり
	3	②ユーラシアの動きと武士の政治の展開		
		まとめ		